

# 2008 名城大学環境ガイド

〔環境報告書〕

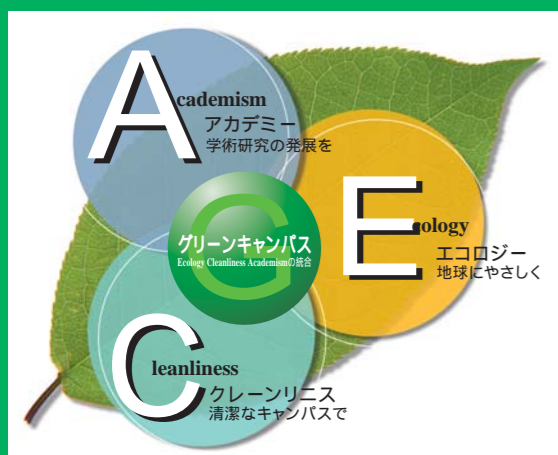
グリーンキャンパスの創造に向けて

名城大学  
Meijo University

環境方針カード  
地震に備えてカード付

# グリーンキャンパスの創造に向けて

名城大学は、地域のみならず我が国における教育研究のリーダーとして「環境の21世紀」にふさわしい環境を創造するために、持続的に発展可能な循環型社会と文化の構築に寄与し、教育研究をはじめとする全ての活動において、「環境」に配慮したキャンパス運営に挑戦しています。



## index

名城大学の環境マネジメントシステム(EMS)	2
環境方針	2
名城大学環境マネジメントシステム組織図	3
取り組み目的・目標および行動	3
2005年度環境マネジメントシステムの活動状況	4
廃棄物の分別	5
キャンパス内での廃棄物処理	5
キャンパス外(自宅、地域)での廃棄物処理	7
環境報告書	9
1.省エネルギー	9
2.省資源	9
3.廃棄物排出量	10
4.地球温暖化	10
5.PRTR対象化学物質	10
平成19年度アンケート調査結果	11

### 名城大学ISO14001フォーラムのあしどり

- 第1回 2001年開学75周年フォーラム  
日程:平成13年9月21日(金)
- 第2回 認証取得記念/フォーラム  
日程:平成14年12月14日(土)
- 第3回 フォーラム  
環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて  
—学生・教職員の立場から—  
日程:平成15年12月13日(土)
- 第4回 環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて  
—認証取得3年を経過して—  
特別講演「環境と法」  
日程:平成17年4月23日(土)
- 第5回 環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて  
—エネルギートーク in 名城大学—  
日程:平成18年6月24日(土)
- 第6回 ISO14001フォーラム  
—基調報告と映画上映—  
日程:平成19年12月8日(土)



第6回ISO環境フォーラム開催



## 環境マネジメントシステム(EMS)

2002年6月にISO14001を認証取得し、環境に配慮した教育、研究、経営に向け、その第一歩を踏み出しました。

ISO14001とは、国際標準化機構(ISO International Organization for Standardization)が1992年の地球サミットの取り組みに関連し、環境に関する国際的な枠組みを検討する必要性を確認し、1996年に発行した環境マネジメントシステム(EMS)に関する国際規格です。ISO14001は継続的に実施・改善するPlan(計画)、Do(実施)、Check(点検)、Action(見直し)のシステムです。

### 環境方針

名城大学の環境マネジメントシステムの対象範囲は天白、八事、可児の各キャンパスに附属農場、附属高等学校、日進グラウンドを加えた全キャンパスになります。

### 名城大学環境方針

#### ● 環境理念

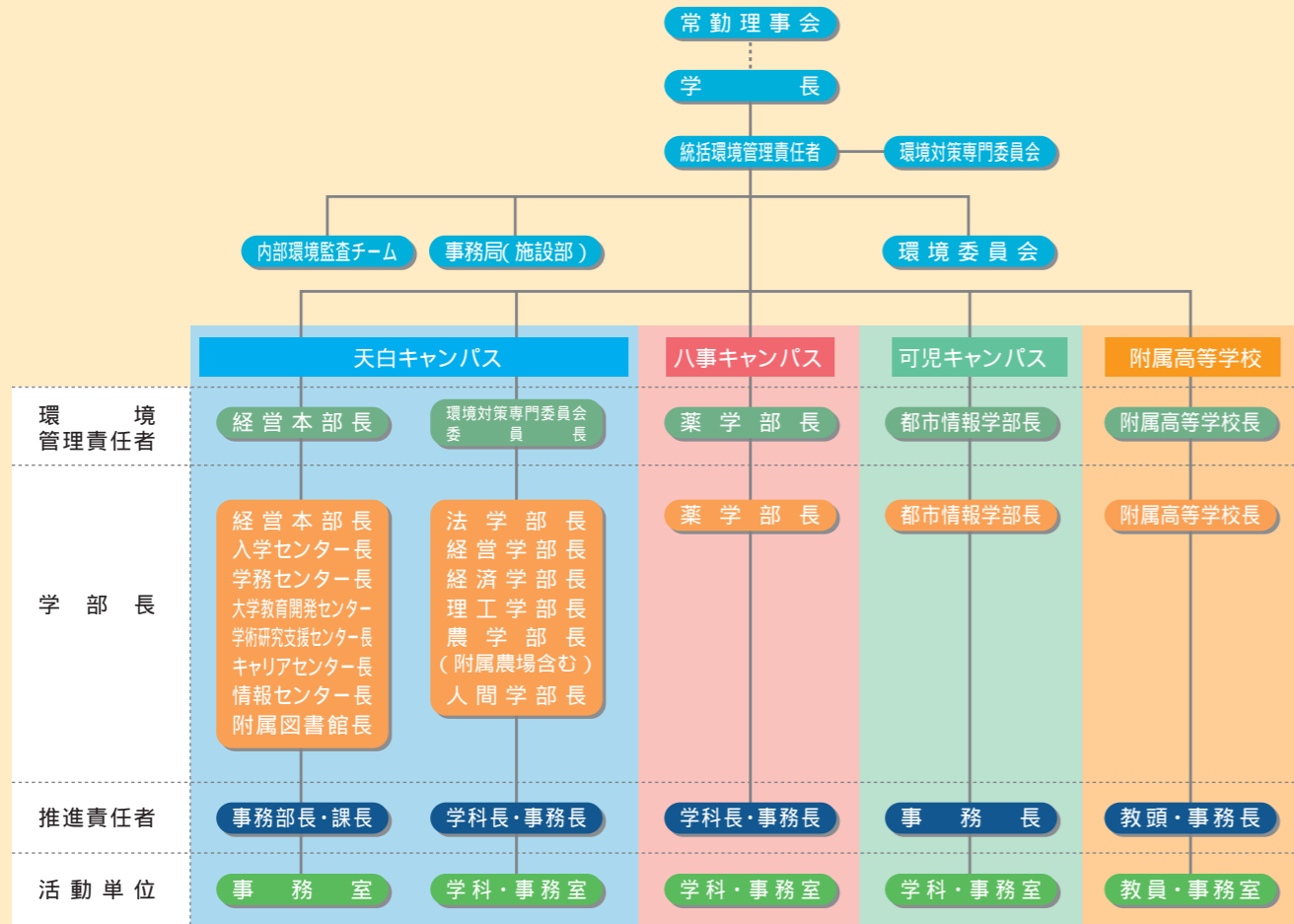
名城大学及び名城大学附属高等学校は、情報化、高度化、国際化する社会の要請と、「環境の21世紀」に応えられる教育研究を推進し、持続的に発展可能な循環型社会の形成に寄与する人材の育成に努めます。

#### ● 環境方針

- 地球環境の保全と維持向上に係る教育研究活動を充実し、環境を視野に入れた人材を育成します。
- 環境に係る公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
- 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量と適正管理に努め、環境負荷の低減に取り組みます。
- 教育研究をはじめ、総ての活動において、環境関連法規制、協定等を遵守し、汚染の予防に努めます。
- 内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- 環境方針を達成するため、環境目的、目標を設定し、定期的に見直します。
- 環境方針は、インターネットホームページで公開します。

平成19年4月1日  
名城大学学長 下山 宏

## 名城大学環境マネジメントシステム 組織図



## 環境方針の具体的な行動

環境方針を具体化するための目的及び皆さんが実施する行動が次の事項です。皆さんに配布した「環境方針カード」の裏面に、「皆さんが実施する行動」の欄から3つ選択し、記入して下さい。

### 環境方針カード



この中から記入して下さい。

自己の環境方針を環境方針カードに記入して、学生証とともに常に携帯してネ!

環境方針カードの裏面は地震に備えてカードです。

目的	皆さんが実施する具体的な行動
節電	冷暖房の効き過ぎに注意 使用しない時の、教室・研究室・トイレの消灯 使用しない時の、パソコンのスイッチOFF
節水	実験や手洗いの時、水のムダ使いに注意
コピー用紙 使用量削減	裏面コピーの利用 両面コピーの推進
廃棄物の削減	分別の徹底 紙ごみのリサイクル推進 持ち込みごみの持ち帰り徹底
喫煙場所	喫煙は灰皿の設置された場所で

## 2006年度 環境マネジメントシステムの活動結果

目的	目標	目標値	活動状況
環境に係わる教育活動の推進	環境関連科目の継続的開講	開講率100%	開講要覧や時間割に従って実施し、100%開講しました。
	環境関連教育の充実 <sup>*1)</sup>	充実度70%	充実度は62~100%でした。行政機関から講師を招いて環境教育を行った部署もありました。
	環境科目の定期試験受験率の向上 <sup>*2)</sup>	受験率80%	大部分の学部は受験率86~93%で目標を達成していますが、一部の学部では目標を下回りました。
	環境意識調査の実施	実施率50%	実施率は53~100%でした。大半の学生は環境に対する意識や行動が向上しました。
	講義・教科・授業以外の環境教育の実施	各部門で設定	デイハイクでのごみの分別指導やオリエンテーションでのISO14001の教育を実施しました。
	実験科目での環境保全指導の徹底	実施率100%	実験・実習科目では実験手引書に基づき、環境保全の指導や廃液処理の教育を実施しました。
	環境行事への支援	2回/年	全キャンパスで構内外の清掃活動を定期的実施しています。更に、天白では禁煙キャンペーンを、高校では牛乳パック回収活動等を行っています。
	大学祭での廃棄物処理の指導	1回/年	大学祭での廃棄物処理の指導を毎年1回以上実施し、ゴミの減量に取り組んでいます。
環境に係わる研究活動の推進及び研究成果の公開	環境フォーラムの開催	1回/年	2006年度は「人間の知恵とこれからのエネルギー」のテーマで開催し、多数の学生や教職員の方が参加しました。
	公開講演会の積極的開催	各部門で設定	公開講演会を学術支援センター、経営・経済、理工、都市情報等で合計7回開催しました。
省資源の推進	学外公開講座、出前講義の講師派遣の記録	記録継続	環境関連の学外講演会や出前講義に全学合計で70名の講師を派遣しました。
	コピー用紙購入量の削減	3%削減	全キャンパスで増加し、全学で8%増加しました。コピー用紙の削減を再度徹底する必要があります。
	水使用量の削減	市水：3%削減 井水：1%削減	市水と井水は殆どのキャンパスで減少し、全学で市水は3%、井水は8%削減しました。
省エネルギーの推進	PRTR対象化学物質使用量の削減	1%削減	使用量は22%減少しました。特に、大量に使用する薬学部が大幅に減少しました。
	電気使用量の削減	1~8%削減 (キャンパス毎に設定)	昼休みの消灯や冷暖房の室温管理により、全学で2%減少しました。また、学生はボランティアとして消灯活動等を行っています。
	ガス使用量の削減	30~50%増加 (キャンパス毎に設定)	天白キャンパスのガス優先使用や八事キャンパスのボイラー新設により天白は18%、八事は43%増加しました。他のキャンパスは減少しました。
一般廃棄物の適正管理	ボイラー燃料(重油・灯油)使用量の削減	50%削減	大気汚染防止や地球温暖化対策のため、ボイラー燃料をガス化しており、5年前と比較して重油は半減し、灯油は1/50になりました。
	廃棄量の削減	3%削減	分別の啓蒙活動や環境パトロールでのチェックにより、全学で1%減少しました。
産業廃棄物の適正管理	保有薬品リストの作成	作成率80%	保有薬品のリストはほぼ100%作成しました。
	実験薬品・材料の購入量の適正化	10%削減	各研究室では購入量と使用量を記録し、購入量の適正化に着手し始めたところであり、削減には到っていません。

\*1)環境内容を含んだ講義時間数/全講義時間数 \*2)受験者数/履修者数



# 廃棄物の分別

クリーンなキャンパスを自分達の手でつくろう!! そして廃棄物“0”化を目指します。

## キャンパス内での廃棄物

### 1 廃棄物の分別方法

#### 天白・八事キャンパス

##### 燃やせる物

生ゴミ、木屑、ティッシュ、紙製のトレイ、写真、紙等




##### 燃やせない物

ビニール類、ゴム製品、ガラス、カップ類容器、プラスチック製容器、フロッピーディスク、ボールペン、ストロー、ペットボトルのキャップ、菓子類包装袋、コンビニの袋



##### ペットボトル

プラスチック識別マークが下記のようにのものに限定。(キャップをとり、中身を洗浄し、つぶす。)



##### ビン・缶

飲料用ビン・缶類(キャップをとり、中身を洗浄) スプレー缶(穴をあける)  
薬品ビンは絶対に入れないでください。



##### 紙専用

新聞、雑誌、コピー用紙、講義用プリント、ノート、リーフレット、パンフレット、チラシ、厚紙、封筒(窓付封筒は除く)



#### 可児キャンパス

##### 燃やせる物

生ゴミ、木屑、ティッシュ、紙製のトレイ、写真、感熱紙、剥離紙等、ビニール類、カップ類容器、ストロー、ペットボトルのキャップ、プリン・インスタント食品の容器、キャンディ・菓子類の包装袋、コンビニの袋、プラスチック製の容器




##### 燃やせない物

ガラス、陶磁器、金物類、プラスチック製の大型ボックス等



##### ペットボトル

プラスチック識別マークが下記のようにのものに限定。(キャップをとり、中身を洗浄し、つぶす。)



##### ビン・缶

飲料用ビン・缶類(キャップをとり、中身を洗浄) スプレー缶(穴をあける)  
薬品ビンは絶対に入れないでください。



### 2 紙類のリサイクル

各号館ホールおよび特定個所に設置された紙専用回収ボックスに入れてください。紙専用回収ボックスには紙以外のものは入れないでください。

#### リサイクル可能な紙

レシート、新聞、雑誌、コピー用紙の他、授業中に配布されたプリント、厚紙、ハガキ、封筒(セロハン系の窓付き封筒は不可)、チラシ、リーフレット、パンフレット、ノート、紙製のフラットファイル(止め具は除く)、紙製菓子箱(平に広げる)等も可能。

#### リサイクル不可能な紙

写真、油紙、トレーシングペーパー、紙コップ、粘着テープのついたもの、プラスチック製のファイル、使用済みのチリ紙、クリップ、ビニール・セロハン系の袋、タバコの吸殻、牛乳パック(牛乳パックは洗浄し切り開いて、近くのスーパー等に持参)



### 3 自動販売機紙コップ

学内自動販売機設置個所にはデポジット機(紙コップ回収専用機)が設置されていますのでその中に入れて下さい。

### 4 産業廃棄物

実験廃液、廃棄実験器具類(ガラス・プラスチック・金属)、実験動物の屍体、注射針等の感染性廃棄物、コンクリートくず、機械系の実習で排出された金属くず、不要什器機器類、体育系クラブ団体の活動用道具等。

種類と内容物		分別・回収
実験、研究で排出	廃プラスチック類(プラスチック類、ディスク製品、ゴム製品等、滅菌したプラスチック類)	研究室もしくは廃棄物保管庫で指定したダンボールに保管
	ガラスくず(シャーレー、試験管、陶磁器類、滅菌したガラス類)	研究室もしくは廃棄物保管庫で指定した容器に保管
	廃薬品、廃油、廃液	指定場所に保管
	コンクリートくず、金属くず	研究室にて保管
	薬品びん	指定場所に保管
クラブ団体活動用具等	金属物(不用な什器、OA機器等)	各クラブ室で回収日まで保管
	運動系の用具、木製什器、プラスチック系の什器類、イス	各クラブ室で回収日まで保管

研究室内での排出物は該当教員の指示、クラブ団体での排出物は学務センターの指示に従い絶対に一般の分別ボックスには入れないでください。

### 5 放置自転車

駐輪場は通学用のために自転車を置く場所です。決して不用な自転車を本学の駐輪場に放置しないでください。  
\*放置自転車には、原動機付自転車を含みます。

# キャンパス外(自宅、地域)での廃棄物

## 名古屋市の廃棄物の出し方・分け方

資源とごみの分け方・出し方一覧表

資源	ステーション(地域の集積場所)収集	プラスチック製容器包装	資源用指定袋に入れて 注)プラスチック製容器包装だけで一袋にしてください。
	紙製容器包装	資源用指定袋に入れて 注)紙製容器包装だけで一袋にしてください。	
	ペットボトル	資源用指定袋に入れて 注)ペットボトルだけで一袋にしてください。	
	空きびん	袋へ入れずに直接、青色のかごへ 注)びんは横に入れてください。	
	空き缶	飲料用・食品用 資源用指定袋に入れて 注)空き缶だけで一袋にしてください。	
拠点回収	紙パック	袋へ入れずに直接、スーパー・区役所などの回収ボックスへ	
	ペットボトル	袋へ入れずに直接、スーパー・コンビニ・区役所などの回収ボックスへ	
曜日	回収日	スーパーなどの営業時間内ならいつでも出せます。	資源は、中をさすついで、それぞれの種類ごとに分けて出していただきます。

ごみ	可燃ごみ	台所・日用品などの燃えるごみ	可燃ごみ用指定袋に入れて
	不燃ごみ	30cm角以下の燃えないごみ、燃やすのに適さないごみ	不燃ごみ用指定袋に入れて
	スプレー缶類	スプレー缶、カセット式ガスボンベ	資源用指定袋に入れて 不燃ごみの収集日に、不燃ごみと別にして(少し離して)出してください
	粗大ごみ(有料)	30cm角を超える大型ごみ	収集日の1週間前(前の週の同一曜日)までに受付センターへ電話でお申し込みください 粗大ごみ受付センター 0120-758-530 ※受付時間:午前9時~午後5時(土・日曜日、年末年始を除く) ※祝日・連休も受け付けています

●エアコン、ブラウン管テレビ、電気冷蔵庫、電気洗濯機は、「家電リサイクル法」に基づき家電小売店で引き取ります。(市は収集しません。) 引っ越し等で購入した小売店が遠方になったり、廃業していた場合は…家電リサイクル受付センター 482-3167へ  
今後、法令改正に伴い対象品目が追加される場合があります。  
名古屋環境局資料

# 可児市の廃棄物の出し方・分け方

## 可児市 保存版 ごみ・リサイクル資源の分け方・出し方

ごみ・リサイクル資源で不明な点は… 可児市役所 環境課 (TEL62-1111)

●もえるごみ収集日 (ご自分の地区の収集日に合わせて下さい)

毎週 月・木曜日 火・金曜日 水・土曜日

●もえないごみ・粗大ごみ・リサイクル資源収集日

種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ガラス類・びん類・磁器類												
金物類・粗大ごみ												
カン・ペットボトル類												
陶磁器類												

(毎年度の日程表からご自分の地区のものを切り取り貼ってください。)

●ごみ・リサイクル資源は決められた収集日の朝8時までに、決められた場所に出してください。(朝8時前には終了するリサイクルステーションもあります。)  
●年末年始の収集日程については「広報かに」12月1日号でお知らせします。

**Step.1** まずは、あなたが出したいごみの中から、次のリサイクルできるものは分けてリサイクルステーションへ出しましょう。

飲料用・食品用のビン 出し方: キャップ・フタを取り、軽くゆすいでください。取れないものは、そのまま出してください。

①無色のビン: まったく色のついていないビン。  
②茶色のビン: ドリンクビンはほとんどこの色です。また、乳製品のビンにもこの色があります。  
③その他色のビン: 無色と茶色以外です。  
④生きビン(一升ビン・ビールビン): 濡れたビールビン・一升ビンは、ここには入れられません。

飲料用・食品用のカン 出し方: 軽くゆすいで清潔にしてください。

⑤アルミカン: ⑥スチールカン: 菓子カン、のりカン、ペットフードのカンでもOK。

プラスチック製容器 (架のものを除く)は、もえるごみに出してください。

⑦ペットボトル: 飲料用・酒・醤油のPETボトルに限る。キャップ・キャップリング・ラベルを取り、軽くゆすいで清潔にしてください。  
⑧発泡トレイ・発泡スチロール: 食品用発泡トレイ・包装用発泡スチロール。ラップ・シールは取り除き、軽くゆすいで清潔にしてください。

古紙類

⑨紙容器(ダンボール・紙パック以外の紙製容器包装): 紙以外のものは取りのぞき(出来ないものはごみとして出してください。)袋へ入れず、ひもで十字状にし出してください。  
⑩印刷物(新聞・雑誌等)・ダンボール・紙パック容器(牛乳等): 紙容器として出せませんが、地域の資源回収等に出してください。

家電リサイクル

⑪テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコン (冷暖房も対象): 許可業者に依頼する等、決められた方法で処理してください。

**Step.2** さらに、特別ごみを分けて出しましょう。

特別ごみ (市役所・連絡所・市民館等で収集します)

⑪乾電池: ⑫蛍光灯・体温計: 白熱電球はガラスのごみで出してください。

**Step.3** さあ、残ったごみは次のように分けて指定袋に入れて出しましょう。

⑬もえるごみ(燃やさないもの): 台所ごみ・紙くず類・布類・洗濯容器・ビニール類等

指定袋制: 指定袋に入れて氏名を書いて出してください。

可燃物集積場へ

⑭もえないごみ: 指定袋に入れて住所・氏名を書き、分別して該当する何れかを丸めて出してください。

⑬ガラス類: 飲料用・食品用ビンはリサイクル資源へ出してください。  
⑭金物類(プラスチックの物等もここへ): ガス缶(カートリッジ型)は火災の危険な場所を必ず穴をあけて出してください。  
⑮陶磁器類: 大森ガレキ処分場: 1回の収集に20kgを超える場合は大森ガレキ処分場へ直接搬入してください。毎月第2・4日曜日 午前9時~午後4時30分開場

**Step.4** 指定袋に入らないものや処理困難物は、次のようにしましょう。

⑯粗大ごみ(定形外): (許可業者収集制、直接申し込み) 150cm×80cm×80cmを超える粗大ごみは許可業者の個別収集となります。直接下記許可業者に収集を依頼してください。(品目、量等により料金は異なります。)  
株式会社 橋本 TEL62-33110  
小島建設株式会社 TEL54-1283

⑰粗大ゴミ(有料シール貼付): 指定袋に入らないもので150cm×80cm×80cmまでのものは、有料シールで収集します。粗大ごみシールに住所・氏名を書いて見やすい位置に貼って出してください。

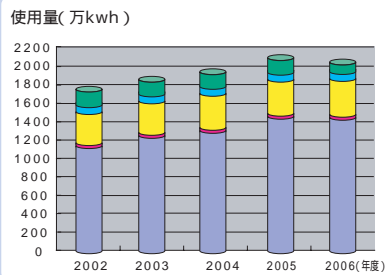
⑱ささゆりクリーンパークで処理できないもの: ●引火性・爆発性のあるものは収集しません。(プロパンガスボンベ、塗料、バッテリー、トナー等) ●医療廃棄物及び農業(注射針、感染性の強いものある農薬、除菌剤、消毒薬等の薬品) ●処分処理できないもの(銃骨、銃板、自動車等のタイヤ、エンジン付乗用車、バイク、高圧洗浄機、ボート・浴槽、土砂類、ボウリングの球、家庭用輸入金庫、ピアノ、電動自転車等) ●販売店・取扱店・専門の処理業者等に相談し、処理してください。

# 環境報告書

## 1 省エネルギー

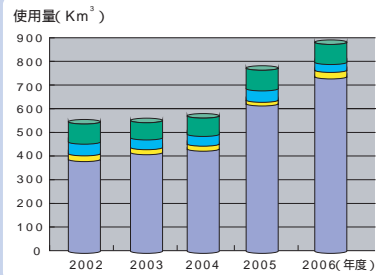
■ 附属高等学校 ■ 可児キャンパス ■ 八事キャンパス ■ 附属農場 ■ 天白キャンパス ■ 大学全体

### 1) 電気



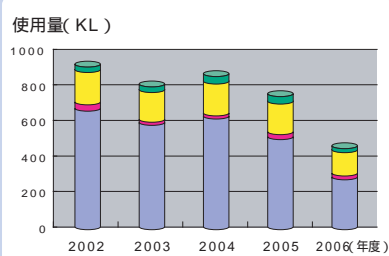
新校舎の省エネ設計、教職員や学生の省エネ意識の向上等により、始めて使用量が減少しました。また、校舎の単位面積当りの使用量は確実に減少しています。

### 2) 都市ガス及びプロパンガスの使用量



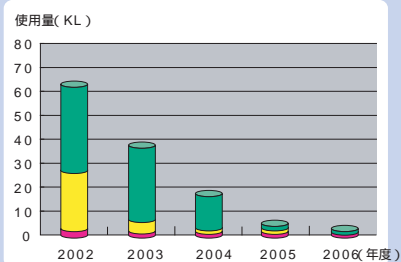
都市ガスは天白キャンパスのガス優先使用や八事キャンパスの新1号館ボイラーの使用開始により大幅に増加しました。

### 3) 重油



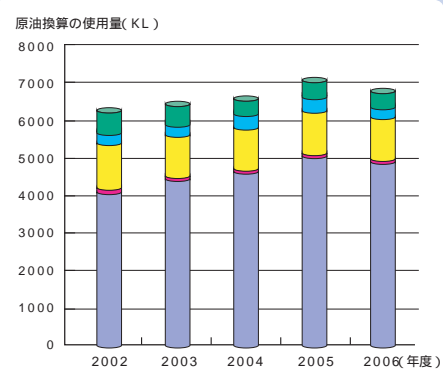
重油は全キャンパスで減少し、5年間で半減しました。重油は硫黄酸化物が発生し、かつ、CO2の発生量が大いので、使用量を減らすことにより大気汚染や地球温暖化を抑制できます。

### 4) 灯油



灯油は灯油ボイラーの廃止や使用回数減少により5年前に比べ1/50になりました。今後も使用量が減少する予定ですので09年度から削除します。

### 5) 総エネルギー使用量(原油換算)

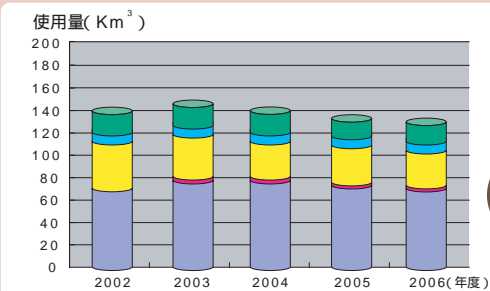


電気、ガス、重油及び灯油を合わせた総エネルギーの総使用量として原油換算の量を導入しました。06年度は都市ガスの使用量が大幅に増加しましたが、重油と灯油が減少したため原油換算の量は各キャンパスで減少しました。これは暖冬であったことの影響が大きかったと思われます。

なお、総エネルギー使用量の評価尺度としてCO2排出量がありますが、CO2排出量は電気、ガス等に加え、水道使用量、廃棄物発生量や自動車用ガソリン使用量を含みます。

## 2 省資源

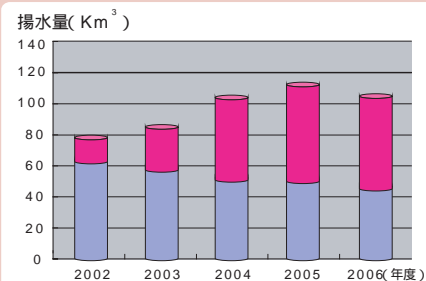
### 1) 市水の使用量



冷却水の循環使用の推進、漏水チェック体制の確立、節水活動等の効果により毎年減少しています。



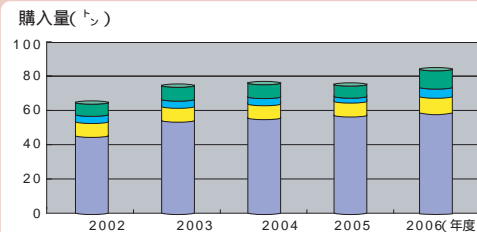
### 2) 地下水揚水量



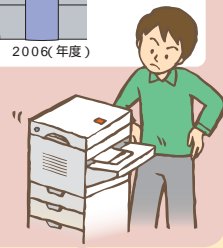
天白キャンパスは漏水チェック体制の確立などにより毎年減少していますが、附属農場は農作物への散水のため夏場の天候により増減します。



### 3) コピー用紙 (PPC用紙) の購入量

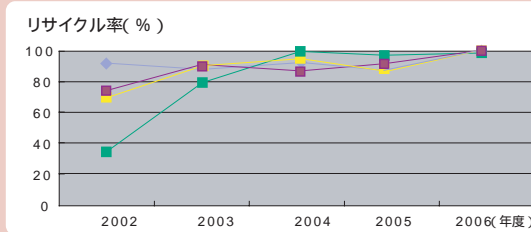


もっと節約できるよな



06年度は増加に転じました。裏面利用や両面コピーは定着しつつありますが、電子媒体の積極的利用、会議資料の配布数等に改良の余地があります。

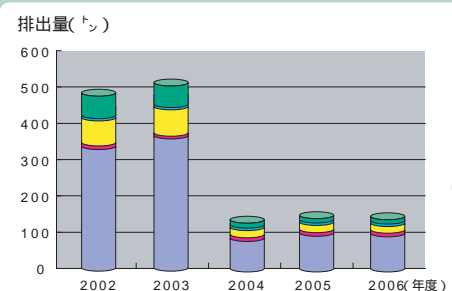
### 4) 紙類のリサイクル



リサイクル率はほぼ100%です。各所に「紙専用回収ボックス」を設置し、更に「環境パトロール」でゴミ箱に紙類が捨てられていないことを確認しています。



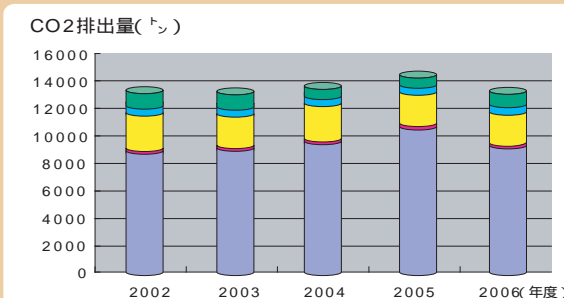
## 3 一般廃棄物排出量



各所に「分別容器」を設置し、「環境パトロール」で中身をチェックしています。



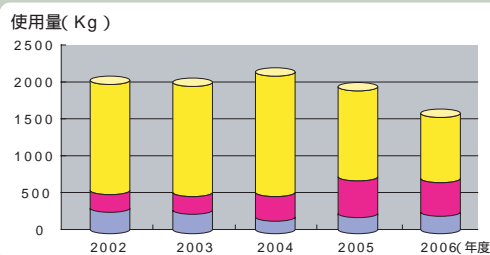
## 4 地球温暖化



ボイラー燃焼の都市ガスや暖冬の影響などの影響でCO2排出量は減少しました。なお、同じ量のエネルギーを使用する場合、CO2排出量は重油より都市ガスの方が少なくなります。

## 5 PRTR対象化学物質

### 使用量の推移



PRTR対象化学物質の毎年1%削減を目標にしていますが、06年度は使用量が大幅に減少しました。教員の退職や引越しが比較的少なかったためと思われます。



### 【省エネ対象項目と削減目標】

省エネ対象項目	電気	気体燃料		液体燃料		市水	井水	コピー用紙	一般廃棄物
		LNG	LPG	重油	灯油				
2006年度の削減目標値	1~8%削減	30~50%増加	1%削減	1~50%削減	1%削減	3%削減	1%削減	3%削減	3%削減

削減目標はキャンパスにより異なります。



# 平成19年度アンケート調査結果

## ISO14001 認証取得による学生の環境意識および行動

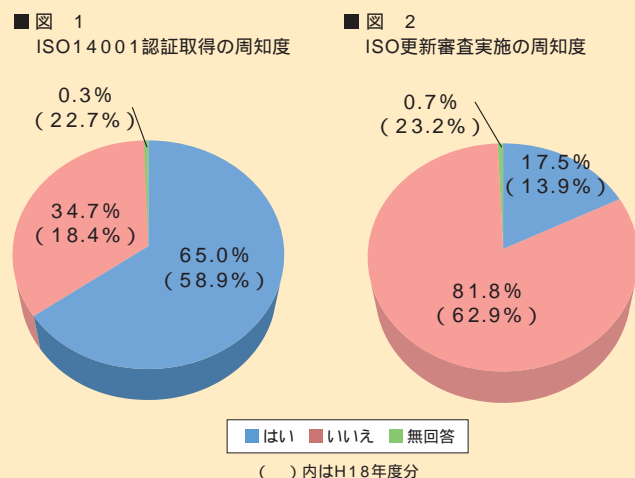
平成18年度に全学部(法・経営・経済・理工・農・薬・都市・人間)の環境関連科目を受講している学生を対象に調査を行い、平成19年度も同様に調査を実施し6,573名から回答を得て、前年度調査との比較・検討を加えた。

法学部	経済学部	経営学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	計
153	171	124	3,771	1,056	1,003	166	129	6,573

### 1 ISO14001の認証取得と更新

図-1は、名城大学がISO14001を認証取得していることを知っているか否かを調べた結果を示した。この図から知っている割合が、前年度58.9%から65.0%に増えている。

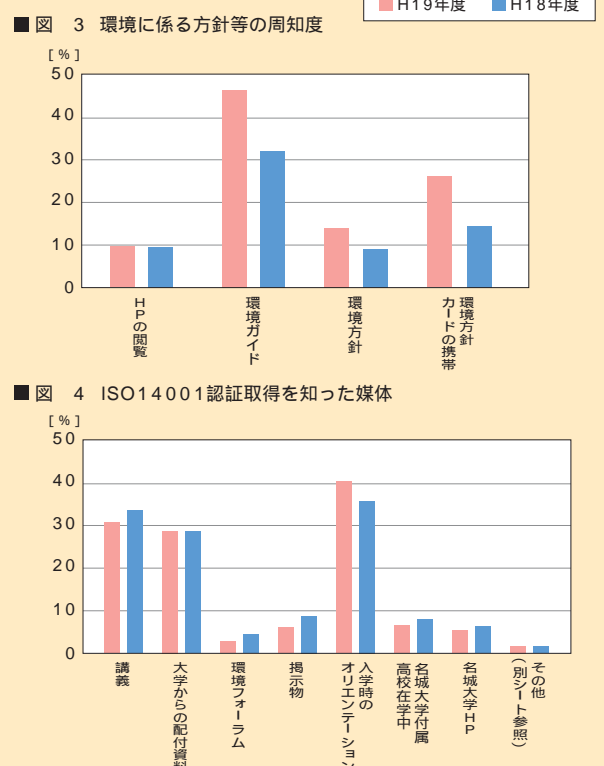
また、図-2は、平成17年6月に認証の更新審査が行われたことを知っているか聞いたところ、前年度62.9%から81.8%に大幅に増加している。これは入学時でのオリエンテーション等における環境活動に関する説明、環境ガイド(環境報告書)での広報等が良い影響を与えていると思われる。



### 2 環境意識

図-3は、①HPの閲覧状況、②環境ガイド(冊子)内容の周知度、③環境方針の周知度、④環境方針カードの携帯、について調べた結果である。その結果、いずれの項目も前年度に比べて増えている。特に、環境ガイド内容の周知度が高い。これは各学部の入学時のオリエンテーションでの環境に係る説明等の取組みによる好結果と推察できる。ISO14001の大学HPの閲覧状況は9.9%、環境方針カードを携帯している学生は27.3%で、特に環境方針カードの携帯が前年度よりも増えている。

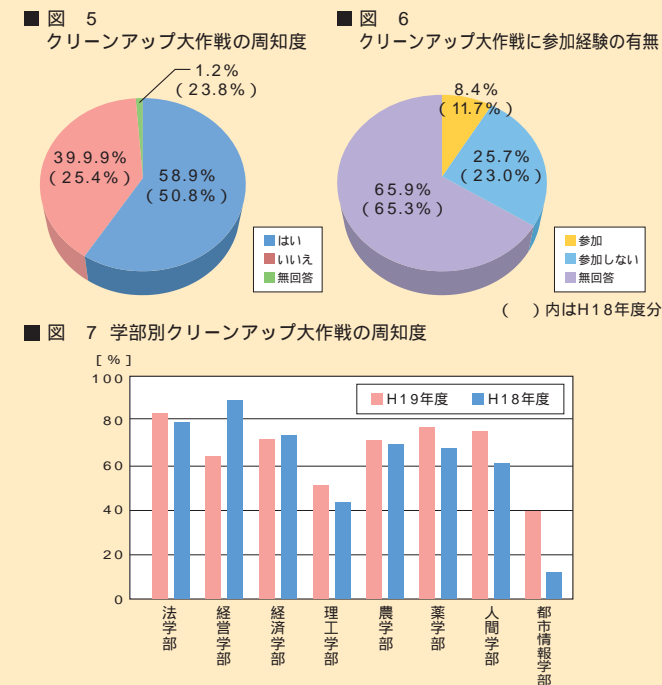
また、ISO14001の認証取得を何で知ったかについては、図-4から①入学時のオリエンテーション40.2% ②講義 30.3% ③大学からの配布資料 28.8%、と前年度に比べ入学時のオリエンテーションでの割合が特に増えている。認証更新を知ったきっかけのほとんどは講義、入学時のオリエンテーション、大学の配布資料によるもので、前年度と同様に大学HP及び掲示物からは少ない。



### 3 クリーンアップ大作戦の周知度

この結果を図-5に示した。この図から前年度よりも多い58.9%の学生が、クリーンアップ大作戦が行われていることを知っている。これはボランティア協議会が中心となって、月2回構内及び大学周辺等の清掃活動を、学生に参加を呼びかけて行なっていることの影響が出ていると思われる。更に、知っている学生にクリーンアップ大作戦に参加した経験の有無を調べた結果が図-6に示した。この図より、参加した学生は前年度よりも少ない18.4%となっている。

このクリーンアップ大作戦の周知度を学部ごとにまとめたものを図-7に示した。この結果、理系学生の割合は増えているものの、前年度と同様に文系学生のほうが周知度が高い。



### 4 大学のISO14001 認証取得による学生の環境意識・行動

学生の環境意識と行動は、図-8に示した。この図から「あまり変わらない、変わらない」が59.6%と過半数以上であり前年度に比べ増えている。「変わった、少し変わった」も38.8%と前年度に比べ若干増えている。

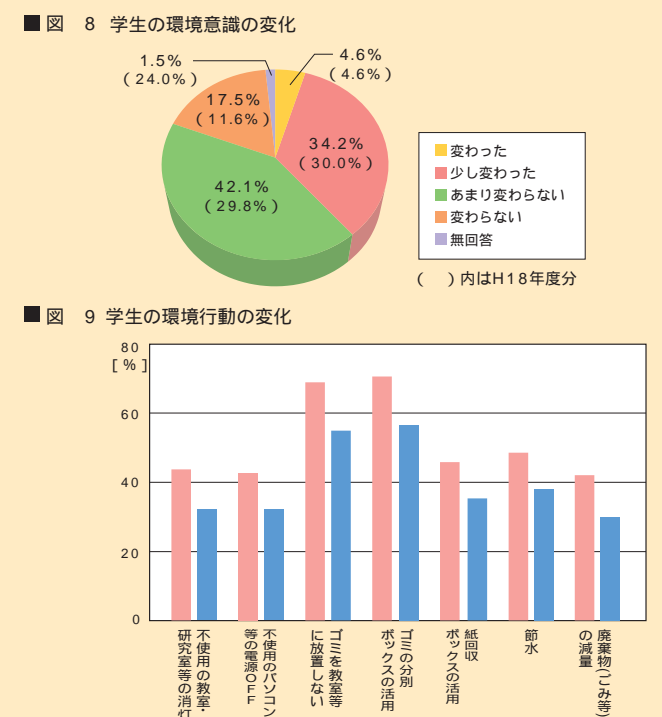
また、図-9から①不使用の教室等の消灯、②不使用のパソコン等の電源OFF、③ゴミを教室等に放置しない、④ゴミの分別ボックスの活用、⑤紙回収ボックスの活用、⑥節水、⑦廃棄物の減量がどの程度実行されているかどうかを調べた。その中で、「よく実行した」、「ある程度実行した」と答えた学生を合わせた結果は、「ゴミの分別ボックスの活用」、「ゴミを教室等に放置しない」で約60%以上の学生が実行していた。

これを図-10a~10cを学部別に見てみると、法学部は「ゴミ分別ボックスの活用」等全ての項目で前年度よりも増えている。特に「ゴミ分別ボックスの活用」、「ゴミを教室等に放置しない」と回答した学生が、約80%以上と非常に増えている。

経営学部は、「ゴミ分別ボックスの活用」等全ての項目で前年度よりも減っている。これは前年度の調査人数が少なく片よったことによる結果と思われるが、今回の調査で、全体的には他学部と同程度であることが分かった。

経済学部は、「ゴミ分別ボックスの活用」等全ての項目においてほぼ前年度と変わらなかった。経営学部と同様な結果となっている。

理工学部は、「ゴミ分別ボックスの活用」等全ての項目で前年度よりも増えている。特に、「ゴミ分別ボックスの活用」、「ゴミを教室等に放置しない」と回答した学生の割合が60%から70%と大幅に増えている。今回の調査では他学部とあまり差のない結果となっている。



■ 図 10a 学部別学生の環境行動の変化 (%)

	法学部	経営学部	経済学部
不使用の教室・研究室等の消灯	38	40	42
不使用の電気機器等の電源OFF	31	58	42
ゴミを教室等に放置しない	86	74	74
ゴミの分別ボックスの活用	79	94	77
紙回収ボックスの活用	83	75	75
節水	81	90	81
紙回収ボックスの活用	54	52	56
節水	47	68	56
廃棄物(ごみ等)の減量	43	41	51
	44	65	49
	38	34	45
	35	55	46

■ H19年度 ■ H18年度

農学部も、「ゴミ分別ボックスの活用」等全ての項目で前年度よりも高い値を示している。特に、「ゴミ分別ボックスの活用」「ゴミを教室等に放置しない」と回答した学生が、平成18年度74%、73%から平成19年度82%と増えている。また、各項目とも他学部 비해平均的に高く、環境意識・行動の高い学生が多くなったと思われる。

薬学部は、「ゴミ分別ボックスの活用」等全ての項目について前年度よりも増えている。特に、「ゴミ分別ボックスの活用」「ゴミを教室等に放置しない」と回答した学生が、平成18年度59%、61%から平成19年度75%、78%と前年度に比べ大きく増加している。他の項目についても前年度に比べ増えており、他の学部と遜色ない結果となっている。

人間学部は、「ゴミ分別ボックスの活用」「ゴミを教室等に放置しない」と回答した学生が平成18年度79%、83%から平成19年度88%、85%と前年度と同様に高い値でさらに増えている。

都市情報学部は、天白キャンパスと離れた可児市にキャンパスがあるものの、「ゴミ分別ボックスの活用」「ゴミを教室等に放置しない」は、約60%～70%で天白キャンパスに比べやや低いが、全体的に前年度とほぼ同様な結果である。

■ 図 10b 学部別学生の環境行動の変化 (%)

	理工学部	農学部	薬学部
不使用の教室・研究室等の消灯	38 27	49 46	49 40
不使用の電気機器等の電源OFF	37 28	50 46	48 38
ゴミを教室等に放置しない	61 42	82 73	78 61
ゴミの分別ボックスの活用	76 45	82 74	75 59
紙回収ボックスの活用	39 28	58 49	46 29
節水	44 28	59 50	58 45
廃棄物(ごみ等)の減量	38 23	49 44	47 34

■ 図 10c 学部別学生の環境行動の変化 (%)

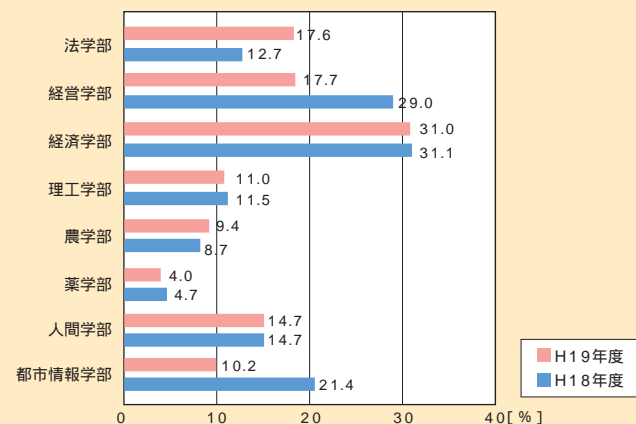
	人間学部	都市情報学部
不使用の教室・研究室等の消灯	40 36	53 53
不使用の電気機器等の電源OFF	42 41	52 51
ゴミを教室等に放置しない	85 83	71 65
ゴミの分別ボックスの活用	88 79	67 66
紙回収ボックスの活用	58 52	49 45
節水	40 50	53 52
廃棄物(ごみ等)の減量	39 39	48 40

## 5 喫煙

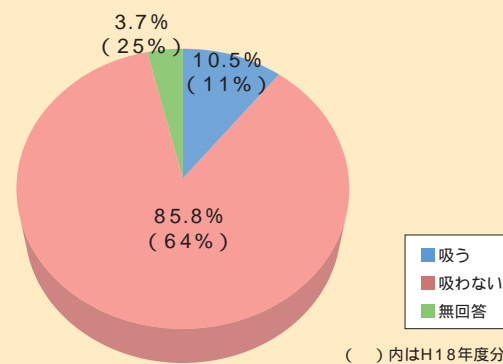
図-11から学生の喫煙者は10.5%と前年度に比べ若干減ったが、被喫煙者が85.8%と圧倒的に多い。この中で喫煙者の喫煙場所、携帯灰皿の使用、歩行喫煙の有無、歩行喫煙は迷惑か否かについて調べた結果を図-12に示した。この図によると、指定場所で喫煙している学生は前年度調査に比べ若干増加し、歩行喫煙を行っている学生は前年度より大学での取組みにより若干減少している。しかし、歩行喫煙を迷惑と思っている学生も前年度よりも若干増え78.3%と非常に多い。

喫煙者を学部別にまとめたものを図-13に示した。この結果、理系学生より文系学生に喫煙者が多い。

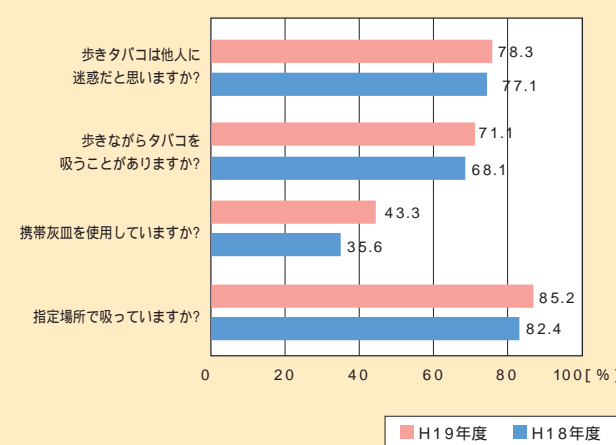
■ 図 13 学部別学生の喫煙率



■ 図 11 学生の喫煙率



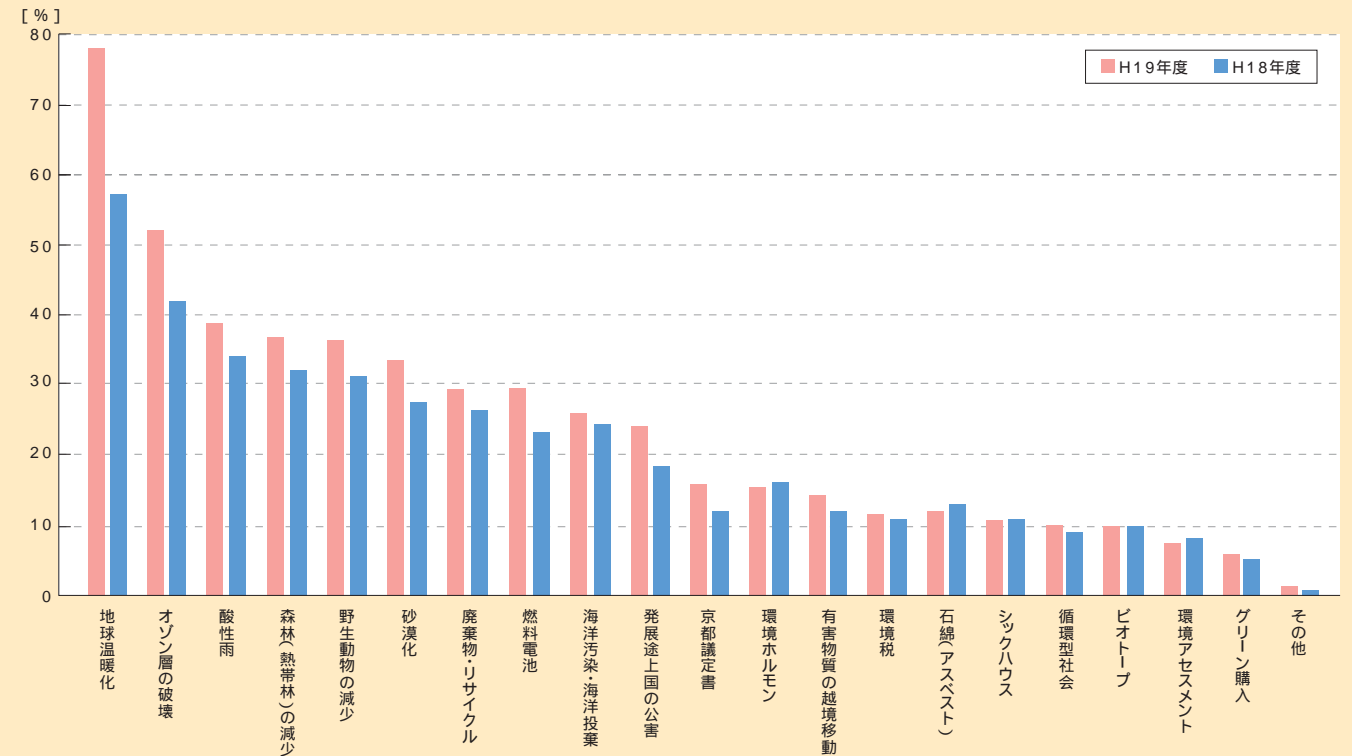
■ 図 12 学生の喫煙状況



## 6 環境(キーワード)での関心の程度

環境に関するキーワードで3つ選んでもらった結果を図-14に示した。この図から今話題になっている地球温暖化が、前年度に比べ78.4%と大幅に増え学生が高い関心を持っている。特に、今回の調査で前年度より学生が高い関心を示した項目は、「オゾン層の破壊」51.6%を始め、「酸性雨」、「森林の減少」、「野生動物の減少」、「砂漠化」、「廃棄物・リサイクル」、「燃料電池」、「発展途上国の公害」であった。

■ 図 14 環境に関するキーワードにおける関心度



## 7 まとめ

- 1) 全学部を対象とした平成19年度の調査によると大学のISO認証取得によって学生の環境意識は年々高まっている。
- 2) 今回の調査から学生の環境意識は高まりつつある。大学HPの閲覧学生は前年度と変わらなかったが、環境方針カードを携帯する学生は前年度に比べ大幅に増加した。環境ガイドを読んだ学生も46.3%と大幅に増えている。この結果から環境ガイド発行の充実、オリエンテーション等での環境対策のPR活動を引き続き進めていく必要がある。
- 3) 2002年にISO14001認証取得後、アンケート調査から徐々に学生の環境行動に、一定の効果が現れている。
- 4) 「ゴミ分別ボックスの活用」、「ゴミを教室等に放置しない」は、全学的に環境意識・行動に現れている。「教室の照明の消灯」、「電気機器等の電源OFF」、「節水」、「ゴミの減量」、「紙回収ボックスの活用」は、前年度に比べ全ての環境行動について増加している。増加した要因は、環境学生ワーキングの中で、学生団体を中心とした構内パトロールの実施、ボランティア協議会が独自に実施している省エネパトロールの実施など、学生の環境活動の推進が一定の影響を与えていることが考えられるので、これらの活動を継続的に推進することが重要である。また、今回の調査においても歩行喫煙者の割合が前年度同様に多く、その行為を迷惑と思っている学生の割合も多いので、その対策について検討する必要があるが、喫煙所のあり方も含めて検討する必要がある。
- 5) クリーンアップ大作戦は過半数の学生が知っている。しかし、その参加する学生の割合は前年度調査よりも少なくなり、学生への参加呼びかけをもっと工夫する必要がある。そのためクラブ・サークル等学生団体への呼びかけを含め、活動の中心となっているボランティア協議会にその方策等について働きかけ、八事キャンパスとの連携も更に進めていく必要がある。





Environment Guide of  
Meijo University

## 2008 名城大学環境ガイド

発行 / 名城大学 経営本部 施設部  
住所 / 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501  
TEL / 大代表 052-832-1151(内線2169、2091)  
ダイヤルイン 052-838-2011  
FAX / 052-833-5523  
URL / <http://www.meijo-u.ac.jp/>  
E-Mail / [ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp](mailto:ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp)



この大学案内誌は再生紙と  
環境にやさしい植物性大豆  
インキを使用しております。

2008.4.1

